

One Team 柏原 「はびろの里未来コミュニティ」

米原市	活動名：柏原学区地域学校協働本部	柏原小学校・柏原中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
 - 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）
- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心に記入ください。）
 - ・柏原小学校 はびろウォークの取組に関して、下見の時期や、コースやチェックポイントの場所、地域に関する講話の内容について。
 - ・柏原中学校 防災訓練の取組方について、毎年担当者が変わっても継続的に実施できるよう検討した。新しい部活動の創設について。
- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 - ・柏原小学校「はびろウォーク」 須川地区を縦割り班に分かれて歩き、地域の方たちや歴史、自然とふれあった。クイズに挑戦するときは、班のメンバー全員で力を合わせ答えを導くことができた。チェックポイントでは学校運営協議会委員やボランティアとジャンケンをするなどの交流ができ、大変盛り上がった。
 - ・柏原中学校「地域防災訓練」 10月に本校体育館・校舎等を使って地域防災訓練を行った。今年度は市の総合防災訓練との合同実施であったため、防災にかかわる多くの方と交流ができた。学年別活動では、1年生は避難所の設営、2年生は消防署による消火訓練や救命講習、3年生はかまどベンチを使って炊き出しを行った。
- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・柏原小学校 学校から須川地区までは距離があるため、往路は徒歩だったが、復路は児童の体力面と時間のことを考え、バスでの移動とした。
 - ・柏原中学校 大規模災害を想定し、炊き出しはご飯パックとレトルトのカレーライスとした。その簡易さが、生徒にとって取り組みやすいものとなり、割り当てられた仕事に責任を持って取り組むことにつながった。防災関係者との交流もすっかりできた。
- 事業の成果
 - ・柏原小学校 子どもたちは学校外での活動に心弾ませ、のびのびと活動することができた。今年は須川地区での活動で、地域のことを改めて知ったり、より詳しく探求したりすることができた。また、上学年は下学年の子たちに寄り添って歩いたり、皆がクイズに参加できるように声をかけたりすることができ、リーダーシップを発揮するよい機会となった。
 - ・柏原中学校 保護者・地域住民のみならず、行政や関係機関と連携しながら実施することで様々な内容を取り入れた事業となった。炊き出しでは生徒が活動の主体となり、災害を自分事として捉えるための貴重な体験となった。また、多くの大人の方の活動を目にすることで防災訓練の大切さを実感することができた。生徒にとっては、将来、地域を担う一員となるんだという意識が芽生える取組となった。
- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 - ・事業の実施は学校運営協議会委員やボランティアの協力なしでは難しい。また、学校主体となっている事業を学運協主体に変えていく必要がある。そのため、事業内容は臨機応変に変更できる組織作りが必要である。各園校の交流については、コロナ前かそれ以上の取組を実施していきたいので、学校運営協議会と連携し、さらなる情報の共有や熟議が重要である。
- その他
 - ・事業には学校運営協議会委員にも積極的に参画していただいている。こども園は学運教には参画しないが、柏原区では従来から連携をしており、今後もこども園と小・中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。



【 はびろウォーク 】



【 地域防災訓練 】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

（報告書記入者 柏原中学校 校長・柏原小学校 教頭）

「子どもは地域の宝」 ～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名：河南学区地域学校協働本部	河南小学校・河南中学校 かなん認定こども園	学校運営協議会：■有 □無 学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務2人） ボランティア登録数：130人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域ボランティアの人材確保のために、どのようにPRするかを検討した。
- ・学校運営協議会主催「河南学区まいばら教育フォーラム」の内容や開催時期、感染症対策について協議した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

河南学区は、中山道の宿場町（醒井・番場）であった地域のため、歴史・文化の史跡が多く、小中学校ともふるさと学習に取り組んでいる。その活動には、地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また、小学校での「ふれあいひろば」では、地域の方々にご協力いただきながら実施している。



【 ふれあいひろば 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学習ボランティアや講師はできるだけ河南学区在住の方々にご協力願うため、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。
- ・「河南学区まいばら教育フォーラム」の生徒・保護者の参加を再開し、多くの参加が得られるように努めた。

■ 事業の成果

- ・河南中学校の家庭科の手縫いやマシン縫いの授業では、教員1人ではなかなか目の届かないところを、ボランティアの方々に数時間学習支援をしていただくことで、きめ細かい指導ができ、生徒の意欲につながっている。
- ・音楽科の和太鼓教室では、その道に長けた地域の方5名に演奏指導をしてもらい、1、2年生の連続で学ぶ充実した取組となった。



【 手縫い補助ボランティア 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・コロナ禍以降事業が再開されつつある中、かなん認定こども園との活動を検討することができなかった。
- ・各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が管理職に、報償費などの事務作業が学校事務職員に偏る傾向にある。そのため、「地域連携担当教職員」にその職務を任せられる校内体制の構築と、事業全般において地域学校協働推進員との役割分担を明確化することが必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・小中連携による「河南学区学校運営協議会」を立ち上げて5年となる。今年度も、「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱいあいさついっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」の3本柱で事業の推進を図っている。
- ・学校運営協議会委員には、地域学校協働推進員や社会教育委員が参画し、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働推進事業の一層の連携を図っている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（河南中学校 教頭）

人とつなぎ 学びをつなぐ 子どもの育成を地域とともに

米原市	活動名：米原学区地域学校協働本部	米原中学校・米原小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 まいばら認定こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：90人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業を考案する主体（該当するすべてに <input checked="" type="checkbox"/> 印） <input checked="" type="checkbox"/> 学 校 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員等 <input type="checkbox"/> 行 政 <input type="checkbox"/> その他（ ）		

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 - ・農園活動・環境整備活動を中心とした活動 小・中・園一体とした活動の推進
 - ・飛び出し坊やの製作、収穫感謝祭（教育）

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 - ・総合的な学習の時間での農業指導や農園整備の実施、収穫感謝祭の開催
 - ・生徒会との連携によるアルミ缶回収や親子愛校作業の開催
 - ・こども園の農園の環境整備（芋苗の手配や芋つるの処分）、環境整備（網戸の整備など）
 - ・小学校 夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業、農園の整備作業
 - ・園・小・中が共同で実施した活動 飛び出し坊やの作成、教育フォーラムの開催
 - ・認定こども園・小・中合同の収穫感謝祭の開催（400名参加）

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・2名の地域学校協働活動推進員をそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として学校との連携調整を密にした。
 - ・中学校内に地域支援本部室を設置していることから、校内で地域の方と接する機会が増え、随時活動を進めることができた。地域学校協働活動推進員には何回も学校園にも足を運んでいただき、積極的に活動いただいた。
 - ・本校にはPTA組織がなく、親子愛校作業は有志による参加のみであったため、学校ボランティアにも参加いただき除草作業をお手伝いいただいた。学校ボランティアの方で学校内及び周辺の草刈りを2日間実施していただいた。

- 事業の成果
 - ・各学年の総合的な学習の時間に、地域学習としてさつまいも・ネギ・大豆・大根・タマネギ等の栽培を行った。農業指導をされている方に畑をトラクターで耕作していただき、農作物の植え付けや収穫の方法について指導をしていただいた。日頃お世話になっている関係機関や地域の方をお呼びして全校で開催した収穫感謝祭にあわせて薪作りや火起こしをお願いした。
 - ・収穫感謝祭には地域ボランティア 15名に参加いただき、認定こども園・小学校・中学校の子供たちとの交流をもつことができた。
 - ・3年生の生徒が育てた葉ボタンのプランターを日頃お世話になっている地域や関係機関への配布する際に運搬や育苗に協力いただいた。
 - ・本校では、生徒会を中心にラヴプロジェクトとして、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行っている。その趣旨を理解していただき、地域での回収活動や後始末に協力いただいた。また、アルミ缶回収の業者への依頼から運搬まで行っていただいた。
 - ・今年も引き続き、交通安全啓発の飛び出し坊やを地域学校協働活動推進員の協力を得ながら制作することとなった。中学校の生徒にデザインを募集し、色塗りなどの作業をボランティアの方と一緒に実施することができた。また、小学校6体、園3体、中学校6体の飛び出し坊やを作成、各校園に配布し、通学路等の危険箇所に設置する予定である。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 - ・業務が多様化している中、年間を通じて充実した活動ができているのは、地域学校協働活動推進員の人柄と尽力による部分が大きい。この活動が持続し、発展するためにも、地域学校協働活動推進員を補佐しつつ、次の地域学校協働活動推進員を育成していくことが必要である。
 - ・地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを学校と地域学校協働活動推進員が連携し発掘していく必要がある。

- その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの指定を受け、6年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するための両輪となりうまく機能していると感じている。今後、新型コロナの心配がなくなれば、生徒が地域へ向う社会貢献できる取組を推進したい。

- 地域学校協働活動推進員と協働する学校関係者（該当するすべてに印）
 - 校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）



【 収穫感謝祭 意見交流会】



【 収穫感謝祭 焼き芋作り】

報告書記入者（ 米原中学校 教頭 ）

地域人材を生かした特色ある学校づくり～DAITOアクティビティ～

米原市	活動名： 大東学区地域学校協働本部	大東中学校・大原小学校・山東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 山東幼稚園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：7人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ DAITOアクティビティの活動内容について（*DAITOアクティビティとは、生徒が主体的に考え、地域とともに取り組む活動）、前年度から取り組みが始まり、今年度はどのように進めていくか。
- ・ 学習支援について、基礎学力向上のため、夏季休業や冬季休業、テスト前、3年生の入試直前に補充教室の開催を行うこと。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 大東中学校では、地域の方を招いて「豊年太鼓踊り」の鑑賞会と体験会を行った。また、学校司書やボランティアを交えて「校内ビブリオバトル」を開催し、図書室利用や読書への関心を高めた。ほかにも、「テーブル作り体験」や「茶道体験教室」などを行った。
- ・ 「ジョイスパーク」「山東幼稚園夏祭りボランティア」「グリーンパーク山東フォレストアドベンチャープレオープン体験」などの地域のイベントに生徒たちが参加し、地域の方々との交流を深めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 生徒たちが主体的に取り組めるよう、自由参加型の活動を多く実施した。

■ 事業の成果

- ・ 生徒たちがDAITOアクティビティの活動に参加し、主体的に取り組むことができた。
- ・ 生徒の学習活動が充実した。
- ・ 地域の方に学校の教育活動に関心を持ってもらうことができ、学校行事に参加してもらうきっかけ作りとなった。



【 豊年太鼓踊り鑑賞 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 潤沢に使える予算の確保が必要である。
- ・ 人材発掘・人材確保をさらに進めたい。
- ・ 生徒の声を取り入れながら、さらに充実した活動にしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 地域の願いを踏まえて、地域とともに歩む学校づくりをしていきたい。
- ・ 学校にも地域にもメリットがある取組を推進していきたい。



【 ビブリオバトル 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 大東中学校 地域連携担当教職員 ）

